

くものいと No. 38

KUMO NO ITO

2005 December 17

関西クモ研究会

大阪府茨木市

くものいと

No. 38, Dec. 2005

- 1 コガネグモの水面への落下を避ける行動について 関根 幹夫
- 3 ゴミグモとゴミグモに付く寄生蜂の幼虫の寄生状況について
船曳 和代
- 5 庭で発見されたワスレナグモ 第3報
—— ワスレナグモの不可解な行動? —— 田中 穂積
- 6 ヒトエグモ, 奈良で発見! 吉田 真
- 9 京都府・滋賀県・奈良県・和歌山県のセアカゴケグモ
吉田 真
- 10 昨年から今年にかけて印象に残ったクモ 船曳 和代
- 15 訃報
- 17 古本紹介 赤松 史憲
- 18 奈良県初記録: ゴマダラヒメグモ 関根 幹夫
- 19 海外の研究トレンド (11)
視覚以外に振動の情報も利用するハエトリグモの求愛行動
梶元 敏也

クモリスト

- 21 春沢圭太郎氏採集の大阪府中部のクモ 西川 喜朗
- 23 第2回武田尾採集会報告 清水 裕行
- 29 枚岡公園採集会の記録
- 34 大阪府枚岡公園のクモ 補足資料 西川 喜朗
- 34 茨木市泉原のクモ 池田 勇介

コガネグモの水面への落下を避ける行動について

関根 幹夫

The behavior of the orb web spider, *Argiope amoena*,
avoiding to drop to the surface of the water

Mikio SEKINE

I observed how the orb web spider, *Argiope amoena*, avoided to drop to the surface of the water on Aug.7, 2005 in Nakamura, Kochi Prefecture, Japan. The Kumo Sumou, a spider-fighting match of an annual traditional event in Nakamura, was held on this day. Two spiders are placed on a stick, where they battle each other. The spider with its own silk dragline, often dropped from the stick to the surface of water in a basin that placed about 60 centimeters under the stick.

I observed on 32 drops. On one occasion, a spider was submerged in water. But on 31 occasions, when the spiders' legs touched to the water, the spiders climbed up to the stick again. It occurred 97% of the time. It suggests that the orb web spider, *Argiope amoena*, notices the surface of the water by its legs, and avoids falling into the water. I am obliged to thank Dr. Makoto Yoshida for his long-term direction and reading manuscript of the present paper.

要 約

しおり糸を曳いて水面近くまで降りてきたコガネグモの雌は、その脚が水面に触れるとしおり糸を手繰ってふたたび上に登っていく。コガネグモは、水への落下を避けていると考えられる。

序 論

コガネグモの雌2匹を横にした棒の上で戦わせるクモの喧嘩遊びは、鹿児島県の加治木町が有名であるが、高知県四万十市の中村でも古くから行われてきた。中村では「ひもし」という棒の下に水を張った入れ物を置く。これは、落ちたクモが水をいやがり、ふたたび棒へ登って闘うことを促すしかけである、と云われている(斎藤 2004)。

また、大崎(2000)は、ジョロウグモから牽引糸を採取する時に、小川の上で巻き取ると、クモは水の上に落ちるのがいやなためなのか、水面とほとんど一定の間隔を保ちながら糸を出す。(中略)クモは、どうも下が水面であることを認識

しているらしく、地面と同じように逃げることはできないのである、と述べている。クモは、水への落下を避けるのだろうか。

材料と方法

2005年8月7日、中村の一条神社境内で催された「全日本女郎ぐも相撲大会」に出場したコガネグモの雌10頭（体長18mm～25mm）を使用した。なお、女郎ぐもはコガネグモの中村方言である。コガネグモの雌がしおり糸を曳いて水面近くまで降りてきたときにとる行動を10頭のクモについてそれぞれ1～6回ずつ観察した。気温は32℃、天候は晴れであった。

結果と考察

観察結果を表1に示す。No.10のクモは、クモの全身が水中に没してしまい、クモは糸を手繰って上に登ることができなかった。No.1～No.9のクモは、しおり糸を曳いて水面近くまで降りてきて脚が水面に触れると例外なく直ちにしおり糸を手繰ってふたたび上に登った。すなわち、クモが水に落ちるのを避ける率は97% (31/32)であった。

表1 10頭のクモがしおり糸を曳いて水面まで降りた回数と
しおり糸を手繰って棒まで登った回数

クモ番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
棒から水面まで降りた回数	6	3	2	2	3	6	4	2	3	1
水面から棒まで登った回数	6	3	2	2	3	6	4	2	3	0

しおり糸を曳いて降りていくクモの姿勢から最初に水面に触れるクモの部位は第1脚となる。クモの第1脚の?節と蹠節が水面に触れるとクモはしおり糸を手繰って上に登った。今回の観察結果から、コガネグモは脚（第1脚の?節と蹠節）が水面に触れると水を認識し水に落ちるのを避け、しおり糸を手繰ってふたたび上に登ると考えられる。

中村のくも相撲は、「ひもし」という棒の下に水を張った入れ物を置き、降りてきたクモが水をいやがり、ふたたび棒へ登って闘うことを促すしかけを経験からあみだしてきたのだろう。一条神社の宮司、川村公彦氏によると、水を張るようになったのは約15年前からとのことである。

謝 辞

今回、この報告をまとめるにあたって吉田真博士から記載についてご助言をいただいた。ここに記し感謝いたします。

参考文献

- 大崎茂芳, 2000. クモの糸のミステリー. 186pp. 中公新書, 東京.
斎藤慎一郎, 2004. クモの喧嘩遊びをめぐる民俗文化論. pp.337-354. In: 上田哲行 (編) トンボと自然観. 504pp. 京都大学学術出版会, 京都.

ゴミグモとゴミグモに付く寄生蜂の幼虫の寄生状況について

船曳 和代

昨年の春、ゴミグモに付く寄生蜂の幼虫の寄生状況について観察し、その結果を「くものいと」? 36に報告した。今年も同じところで、ほぼ同じ時期に観察したので報告したい。去年はゴミグモが非常に多く、寄生蜂の幼虫をつけたゴミグモも少し異常ではないかと思うほど目撃した。そして今年はそれがどう変化するか楽しみであった。

図1はその結果を示したものである。2004年に非常に多かったゴミグモは、2005年には激減していた。ゴミグモはどの地域でも減少しており、広い地域で密度を減少させる何らかの原因があったものと思われる。寄生率も2004年は高く ($191/702 = 27.2\%$); 2005年は非常に低かった ($5/211 = 2.4\%$)。寄生された部位は、右肩 (47%), 左肩 (45%), 尻 (8%) であり、両肩が圧倒的に多いことが分かる。2004年のデータでは、寄生率の高い場所 (最高 53%) と低い場所 (最低 0%) があったが、クモの数と寄生率の間には相関はなかった ($r = 0.07$)。

謝辞

本稿をまとめるのにあたり、吉田真先生には全体の構成と文章指導を、榎元敏也氏には私の表を見やすいグラフに作り変えていただきました。お二人の力をお借りしなかったならこのような立派な報告に仕上がらなかったと思います。ここに記して感謝申し上げます。

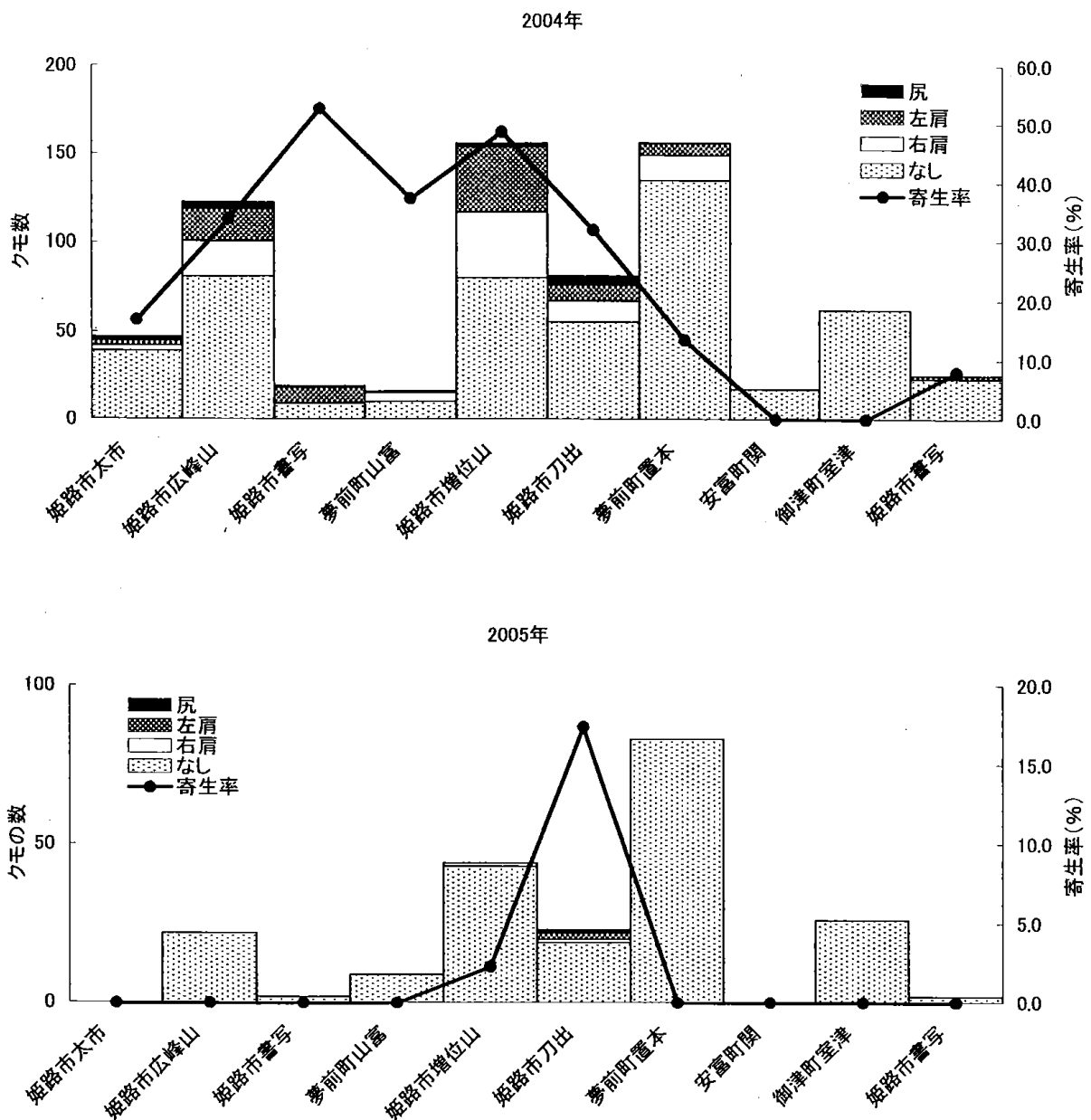


図1 2004-2005年のゴミグモ・寄生蜂の数(棒グラフ)と寄生率(折れ線グラフ)
 姫路市書写が二つあるが前の方は東洋高校北、後の方は工芸館北である。環境が前年と比べ特に大きく変わったところはない。ただ姫路市刀出では空き家になった住宅がすべて撤去され、人の手が入らなくなったために草が伸び放題になってきた。また御津町室津では、駐車場そばのトイレが新しくなっていた。去年はここにたくさんいたが、今年は2頭しかいなかった。

庭*¹で発見されたワスレナグモ 第3報
—— ワスレナグモの不可解な行動? ——

田中 穂積

第1 (田中, 2004a)・2 (田中, 2004b) 報と2年間の本種の行動を紹介してきたが, 第3報として3年目の行動について紹介して見たい。とくに, 第2報で示した穴の直径が5 mm程度の比較的大きい個体, BとIについて述べてみたい。

まず, 2年間の行動から, 4月に入って暖かくなって来ると穴を開けると思い捜してみるが, 今年(2005年)は全くその様子が見られない。5月になっても, 6月になっても見る事が出来なかった。何らかの環境条件の影響で, 昨年場所からどこか他の場所に移動してしまったのだろうか?

ところが, 7月中旬(16日頃)に入って, 個体Bの穴を, 昨年と同じ場所で発見。夜には, 入口にいる個体を確認。やはり, 移動はしていなかったようだ。また, 個体Iも約1週間後に昨年と同じ場所に穴を開けた。それにしても, なぜ春になってすぐに出て来ないのだろうか。さらに個体B・I共に, 穴を開けた後数日で穴を閉じてしまった。個体Bは, その後, 8月初め(1日)に, 再び穴を開けたが, 前回と同様, また数日で穴を閉じてしまった。個体Iはその後穴を閉じたままである。いったい, この不可解な行動は何なのか。それとも, この行動が, この種にとって, 普通の行動なのか。あれこれ考えていた中で, 今年の日本蜘蛛学会の大会(8月27・28日)の折, 笹岡文雄さんと本種について話す機会があった。その中で, 私のこの報告のように, 本種が不定期に穴を開けたり閉じたりすることを聞いた。その後, 大会での話は, 梅林力さんの観察例に基づくことを確認した。そうすると, この行動は本種にとって普通の行動なのかも知れない。それにしても, なぜ, このような行動を取るのか? 個体Bが9月6日に, 再び穴を開いた。その後, 9月24日現在開いたままである。また, 個体Iも9月13日に再び穴を開き, 24日現在開いたままである。この後, どの様な行動を取るのかとても興味が持たれる。

今回の報告は, このような行動を予測していなかったもので, 大雑把なものになってしまった。来年は詳細な報告が出来るようにしたい。また, 本種の行動に興味を持たれた方は, 行動について調査・報告していただくことを期待している。

本種に関して, 近い所では, 緒方(1997)の報告が見られる。参照していただきたい。

参考文献

緒方清人, 1997. ワスレナグモ (*Calommata signata*) の集団住居について. 蜘蛛

(KUMO), (29):11-14.

田中穂積, 2004a. 庭で発見されたワスレナグモ —第1報—. くものいと, (35): 35-36.

田中穂積, 2004b. 庭で発見されたワスレナグモ —第2報—. くものいと, (36): 4-5.

*1 大阪府富田林市藤沢台

ヒトエグモ, 奈良で発見!

吉田 真

2005年9月6日に、松森哲重さんという方から、ヒトエグモが送られてきた。オスの成体である。ご自宅(奈良市十輪院町21番地)台所の引出しの中にいたという。松森さんは、インターネットで調べてヒトエグモと同定され、このクモが入用かどうかを池田博明さんに問い合わせされた。池田さんが私を推薦されたので、そのクモが我が家に届いたのである。松森さんはこの他にも、2004年の夏から秋にかけて、ご自宅の廊下を這っていたり、庭の植木鉢の下にいたヒトエグモ、計3匹を採集されていた。これらの「乾燥標本」も、松森さんに送っていただいた。

故八木沼先生は原色日本蜘蛛類大図鑑で、ヒトエグモの分布を「本州(京都・大阪・堺)」とされていた(八木沼1978)。先生はその後、原色クモ類図鑑で、「分布:本州(京都・大阪・奈良)」とされた(八木沼1986)。しかし、奈良のどこで採集されたかについては記録が残っていない。数年前に八木沼先生の所蔵するヒトエグモの標本を見たが、そのなかには奈良のものはなかったように記憶している(もう一度確かめる必要はあるが)。したがって松森さんが採集されたヒトエグモは、私の知る限りでは、標本が実存している奈良産の唯一のものであろう。

松森さんの手紙から:

「当方の住んでいる家は25年ほど前に建てられたもので、奈良時代より南都七大寺のうちでも勢力の強かった元興寺(世界文化遺産)の元境内にあたります。一帯は奈良町と呼ばれ古い旧家・寺院などが多数点在しており、当家の隣も法徳寺という融通念仏のお寺とその横に真言宗の十輪院というお寺があります。

ほんの近くに他に2件のお寺があり、そういった古い建物・墓地に今もヒトエグモはひそかに住んでいるのでしょうか。機会があればお寺の方に一重蜘蛛を見たことがあるのか?尋ねて見ようと思います。」

吉田から松森さんへの手紙：

「ヒトエグモを飼育したのは初めてですが、餌を食わないので困っています。トビケラ、ユスリカ、小さな羽蟻などを与えたのですが、食べた形跡がありません。『自然状態』ではいったい何を食べているのでしょうかね？オスの成体なので、餌は食べないのかもしれませんが。ガラス瓶に移したら居心地悪そうにしていました。平たい体をしているので断面が丸いガラス管は苦手なのかもしれません。タッパーに入れたところ、タッパーの垂直の壁に上れないことが分かりました。この辺はアシダカグモなどとかなり違います。タッパーのつるつるした床も苦手ようです。松森さんが入れていたクリップの箱は表面がざらざらしているのか、すばやく移動しますが。小さなマッチの箱を半分に切って隠れ家としてやったら、喜んで(?)中に入っています。」

その後の状況

カゲロウ・ユスリカなどを隠れ家に引き込んだ形跡がある。口を付けた形跡があるようにも見えるが、本当に食べているかどうか分からない。臆病なクモで、人前では餌を襲ったりしないようだ。狭いところが好きなようで、隠れ家や隠れ家とタッパーの間などの身体を入れて休んでいる。毎日、湿った紙片を入れている。採集されてから二ヶ月を経過したが、まだ元気である。

結局のところ、垂直の壁に登れないこと、隠れ家や狭い隙間が好きなこと以外に、飼育していても何も分からない。捕食行動すら見せてくれない「謎のクモ」である。そこで私は以下のような「指名手配」の文書を、京都・大阪・奈良在住の知り合いに送ったのだが、今のところ見つかったという返事はない。

追記：

ヒトエグモの奈良での採集記録が残っていないというのは私の勘違いで、八木沼・新海(1972)の「分布資料」には「*Hitoegumua nipponica* Kishida. 奈良県元興寺, ♀; 山口エミ子氏」と記載されている(「奈良県」は、正確には「奈良市」とすべきものだろう)。

松森さん宅では、10月17日にまたまたヒトエグモが採集された。オスの成体である。採集するときにクモを傷めてしまい、残念ながら死んでしまったとのことである。それにしても、松森さん宅では、昨年に3匹、今年に2匹取れている。ヒトエグモの密度が高いことは明らかで、この付近の家やお寺に指名手配の文書を配布するか、関西クモ研究会で「ヒトエグモ採集ツアー」を企画するのもいいかもしれない。

なお、先日、立命館大学の職員の方から、ヒトエグモのメス成体を頂いた。しかし、残念ながらすぐ死んでしまった。データは次のとおり。

採集日時：2005年11月21日 採集地：京都市左京区下鴨下川原町の民家

引用文献

八木沼健夫・新海栄一. 1972. 分布資料. *Atypus*, 58: 43.

八木沼健夫. 1978. 原色日本蜘蛛類大図鑑. 増補改訂版. 保育社. 206 pp.

八木沼健夫. 1986. 原色日本クモ類図鑑. 保育社. 305 pp.

吉田真. 1999. ヒトエグモ (*Plator nipponicus*) についての覚え書き. くものいと (26) : 17-22.

WANTED!! ヒトエグモ求む!

習性の観察と DNA 分析のために、ヒトエグモを求めています。もし採集できたら、吉田までお送りください。金一封を進呈します。

1) 習性の観察

奈良市の松森さんが自宅で採集されたヒトエグモのオスを飼育しています。このクモの生態・習性などはほとんど分かっていませんので、飼育して捕食行動などを観察しようとしています。できれば雌を手に入れて交尾させ、産卵させてみたいと思っています。

2) DNA 分析：日本のヒトエグモはどこから来たか？

「覚え書き」(吉田 1999) をお読みになれば分かりますが、京都・大阪・奈良のみに分布するというのは奇妙なことで、私は人為分布ではないかと思っています。つまり、平安時代以降に朝鮮半島から人や物とともに持ち込まれたのではないかということです。

先月蜘蛛学会の大会がありまして、そこに出席されていた Park さんという韓国の研究者と話をしました。DNA の比較によってコモリグモ類の系統関係进行分析するという研究をされている方です。日本と韓国で採集されたヒトエグモの DNA を彼が分析すれば、両者がいつごろ分岐したかが分かるかもしれないそうです。

韓国でも非常に珍しいクモだそうです。100%アルコールだと長期間そのまま保存できるそうなので、飼育しているクモが死んだらその状態で保存し、韓国に送ろうと思います。

送り先：〒606-8075 京都市左京区修学院坪江町 2-5 吉田 真

送り方：(定形外) 郵便で大丈夫です。5 ミリ四方ぐらいの大きさの紙を水に浸して、タッパー、クリップの箱など小さな容器に入れ、そこにヒトエグモを入れてください。

京都府・滋賀県・奈良県・和歌山県のセアカゴケグモ

吉田 真

2005年10月に、京都府と滋賀県であいついで、セアカゴケグモがはじめて発見された。その経過について述べるとともに、奈良県と和歌山県における発見記録をおもにインターネットで検索してみた。兵庫県については、清水裕行さんが調べておられるので、割愛した。

滋賀県

滋賀県では、大津市秋葉台の木材加工販売会社で10月19日、セアカゴケグモ1匹が見つかった。その会社の社長が木材置き場近くの溝から出てきたものを捕まえて滋賀県に通報したものである。立命館大学に持ち込まれたクモを、私がセアカゴケグモと同定した。腹部下面の赤い模様は砂時計形ではなく棒状であった。これが個体変異なのか、地域の変異なのか分からない。この場所でのその後の調査では、セアカゴケグモは見つかっていない。

京都府

京都府でも、南部の加茂町・木津町・宇治市でセアカゴケグモがあいついで見つかった。KBS京都のスタッフとともに私は10月26日に加茂町を訪れて現場を視察し、町役場の担当者や町長からお話を伺った。それによると、第一発見者は大阪府公衆衛生研究所に勤務されていた吉田政弘さんだという。JR加茂駅南側の再開発地域で彼が発見し、10月11日に町に通報した。町長を先頭に職員数十人で調査したところ、セアカゴケグモ27匹、卵のう16個が見つかった。そのほとんどは、長さ50メートルほどの、何の変哲もないコンクリートの側溝から発見されている。

これとは別に、同時期に木津町と宇治市でもセアカゴケグモが発見されている。

奈良県

私が調べた限りでは、以下の市町（北から南の順で並べた）で発見されているが、これ以外にもあるかもしれない。下線は大阪府に隣接する自治体。

奈良市、生駒市、三郷町、河合町、上牧町、香芝市、広陵町、橿原市、大淀町、

五條市

和歌山県

和歌山市、岩出町、橋本市。これらはいずれも大阪府に隣接する自治体である。

セアカゴケグモ分布拡大の特徴

近畿地方でセアカゴケグモが発見された地域を概観すると、このクモの分布拡大の特徴が明らかになる。戦国の武将が城を、近くにあるものから一つ一つ落と

していったように、セアカゴケグモも、ある地域に進出して増殖し、ゆっくりと力を蓄えて「制圧」したあとで、隣の町への進出を図るといった戦略を採用しており、遠く離れた場所への「飛び火」はほとんどない。

大阪はもはやセアカゴケグモに制圧され、ほとんどの市町村にはセアカゴケグモ発見のマークが付けられている（以下の URL 参照）。大阪府の東に隣接する奈良県では、多くの市町で発見されており、それらの多くは県の北西部に位置する、大阪府に近い自治体である。和歌山県では、大阪府と隣接する県最北部の 2 市 1 町で発見されているが、これは大阪府南部のセアカゴケグモの密度の高さを考えると、当然の結果といえよう。むしろ、和歌山県ではもっとたくさんの自治体で見つかったもおかしくないと思うのだが、進出の速度は遅い。京都府で見つかった木津町と加茂町は奈良県と隣接し、大阪府とも近い自治体である。

1995 年に大阪でセアカゴケグモが発見されてから 10 年となる。私たちは当初、このクモが急速に日本各地に分布するようになると予想していた。しかし、10 年たってようやく京都・滋賀に到達するという遅い速度で、このクモは勢力を拡大している。これで近畿地方ではすべての府県で発見されたこととなり、セアカゴケグモは三重県を含む二府五県を拠点とし、さらに勢力を拡大しようとしている。

遠くに「飛び火」したのは愛知の中部国際空港と群馬の高崎市のみである。後者は大阪から転勤した方の庭から発見されたもので、たぶんセアカゴケグモが付着したものを引越しの際に運んでしまったものであろう。何故このような「飛び火」がもっと頻繁に起こっていないのだろうか？これはひとつの謎である。

大阪府におけるセアカゴケグモの分布：

<http://www.pref.osaka.jp/kankyoeisei/sumai/2seaka/seaka.html>

昨年から今年にかけて印象に残ったクモ

船曳 和代

クモやクモの網を観察しながら山や野原を歩いていると、今まで一度も見たことのないクモや珍しいクモを見つけて感激したり、その年に限ってやけに目に付くクモがあったり、今まで何気なく見ていたものにふと疑問を感じたりする。

昨年から今年にかけてそんな様々な面で私の印象に残ったクモを紹介したい。

☆ ジグモ

今の家に住み始めておよそ 25 年になる。最初はいなかったジグモの巣を、数年たって植木屋さんが植えた木の根元に見つけたときは嬉しかった。子供の頃、こ

のクモで遊んだ記憶のある人も多いと聞くが私は見たことがなく、クモをやりだしてからほとんど見かけず、一種あこがれのようなクモであった。こんな所に住み着いて無事子孫を残してくれるのだろうか、と心配していたがアッという間に庭はジグモだらけになった。庭以上にすごい過密状態で巣が作られていたのは、横のグリーンベルトのツツジの根元であった。直径1cmを越すような巣がいくつも地中から伸びて細い幹を取り巻いていた。そして春を過ぎるとたくさんの小さな子グモの巣が、コンクリートや植木鉢、置石の側面に背比べをするように作られている。いつの間にか親グモは卵を産み、孵り、子グモは分散して新しい住処をつくっているらしい。

こんなにたくさんのジグモがいるのだから今までバルーニングも当然目撃していそうなものなのだがそれがなかった。多分寒さの苦手な私は、まだ中にこもっているからだろう。今年ようやく見る機会恵まれた。

3月8日、庭に水遣りに出て、万両の葉先から梅の枝、桜の枝と引き回された白い糸の束を見つけた。ジグモらしきクモも数匹糸の間に見える。これが話に聞くジグモのバルーニングだと気がつきあたりを調べると同様のものが2箇所見つかった。翌日さらに詳しくみてみた。するとグリーンベルトのツツジの上は一面真綿を引き回したような状態であった。だいたい数をかぞえてみると30メートル程の間に20以上のバルーニングあとがあった。

クモは多くはなかったがあちらに数匹、こちらに数匹とまだ移動中のものがあった。バルーニングはそれ以後もしばらく天気の良い日には見られた。



ジグモのバルーニング

☆ チュウガタシロカネグモ

コシロカネグモとオオシロカネグモは私の周辺ではごく普通に見られる。しかしチュウガタシロカネグモはめずらしくほとんどみられない。もっともシロカネグモが網を張っているのをみても一つ一つ手にとって確認することはしないので、見逃しているのだとおもう。7~8年前に姫路市青山で行われた採集会では、東條さんがこのクモを採集されていたので、数は少ないがいるのだと思う。

今年4月17日、御津町の室津へゴミグモとゴミグモにつく寄生蜂を調べに行った。そのとき草間に子グモがたくさん網を張っていた。クモは一見オオシロカネグモの子供のように見えるのだが、網の感じが少し違う。平面的な円網だけでなく網の上にも糸が引き回され、一見立体的な感じを受ける。季節がもう少し先で、網がもう少したてに張られていたらジョロウグモと間違いそうである。これはひょっとしてチュウガタシロカネグモではないかと持ち帰り調べてみた。やはりそうであった。その付近にはたくさんいた。その後、ここより少し東の御津町の御津でもたくさんいた。どちらも瀬戸内海に面しているところで、海岸には多いクモらしい。昨年も同じところに来て同じ調査をしているのにその時はきづかなかった。その後東京蜘蛛談話会の佐賀合宿でもたくさんみかけた。出会いはとは案外そんなものかもしれない。

☆ アカイソウロウグモ

イソウロウグモ類は、姿形、色からトリノフンダマシ類の次に引きつけられる。シロカネイソウロウグモは美しい銀色の小粒、ほろりとかぼれる雫のような形のトビジロイソウロウグモは、中が透けて見えるような光沢のある茶色の腹部を持ち、繊細な美しさがある。

中でも鮮やかな腹部を持つアカイソウロウグモは写真でしか見たことがなく、一度実物を見たいクモであった。分布は本州、四国、九州、石垣諸島となっている。多分暖かい地方のクモのようだから兵庫県で目にする機会はないだろうとあきらめていた。

それが今年8月26日、兵庫県の竹野で初めて目にする機会にめぐまれた。蜘蛛学会の大会前日に行われた夜間観察会でのことである。東京の永井亜紀さんが採集されたものをみせてもらった。ジョロウグモの網の下の方にいたらしい。立派な雌の成体で、腹部は丸々としていて近々産卵しそうな個体であった。クモは馬場さんの研究のために多分殺されてしまったと思うが、宝石のように美しい姿は今も私の目に残っている。

☆ トゲグモ

20数年前、夫の故郷へ墓参りに出かけたときに初めてこのクモを見つけた。トゲトゲの硬い腹部を持つこのクモは、私の普段見かけるクモとはあきらかに違っていて、南国の香りをプンプン発散していた。夫の故郷は兵庫県宍粟郡千種町岩

野辺というところで姫路の北北東に位置している。冬は寒く雪の多いところである。姫路より寒いところにどうして南国のクモが? と首をかしげた。

その後このクモは結構関東方面にも住んでいることを知った。去年は本庄さんの案内で竹野では毎年見かけるといふ所を訪れ、実際数頭のトゲグモを見ることができた。しかし私が普段よく行くところではみたことはなかった。

今年8月9日、私のフィールドの一つである安富町関でこのクモを見つけた。10年あまり通い続けてはじめてのことである。20日にも見つけた。最初のもは採集したので少なくともここに今年2頭のトゲグモがいたことになる。もっとも安富町も千種町も同じ兵庫県の宍粟郡でいて当たり前、むしろ発見が遅れたというべきかも知れない。

このクモの網は外枠の一部に白い小さな糸だまを並べてつけ、その部分だけが隠れ帯をつけたように白くくっきり見える。そんなありのままの網を採りたいのだがラッカーをかけてしまうとそんな微妙な線の太さは出てこず、どこも均一の白さになってしまう。残念である。

☆ オオトリノフンダマシ

クモの卵のうの中には美しいものが多い。ハラビロセンショウグモの卵のうなどはまさに芸術品だと思う。ただあまり小さすぎて美しさに迫力がない。それに比べるとトリノフンダマシ類の卵のうはそこそこ大きく面白い形をしている。なかでもオオトリノフンダマシの卵のうは天地3~4センチもある紡錘形で、二つ三つと並べて吊るされると見事である。

今年はこの卵のうをよく見かけた。姫路市の青山で3個、夢前町の山富で1個、宍粟郡の安富町関では実に11個(3個吊るしたもの2つ、2個吊るしたもの1つ、1個吊るしたもの3つ)も見つけた。これは9月3日現在の記録でそばにまだクモのいた卵のうもあり、これよりも増えている可能性がある。

安富町でオオトリノフンダマシを見つけたのは今年が初めてである。来年はもっとたくさんみられることを願っている。

☆ クマダギンナガゴミグモとギンナガゴミグモ

普段から勉強不足の私は、今まで一種類だと思っていたものがいつの間にか2種類3種類に分けられていて戸惑うことが多い。それもこれまで外観から即座に同定可能だったもの(ヤリグモとヒゲナガヤリグモ、カラスゴミグモとカギツメカラスゴミグモのように)だとあわててしまう。そしてただでさえ面倒な同定作業がますますわずらわしくなる。

クマダギンナガゴミグモとギンナガゴミグモのそんな中のひとつである。ゴミグモ類の同定作業でActa, No. 41の谷川さんの論文を見ることも多かったのに! 見ようとするものしか見えないようだ。

ギンナガゴミグモの網には、中心付近に花火のような隠れ帯をつけているもの

がある。宍粟郡安富町関にはそんな網が多い。私は花のような美しい隠れ帯をつけたきれいな網が採りたくて何度も当地に通った。ここまでは車で50分ほどかかり、更に少し歩かなければならず朝早くは着けない。そのため破れてしまっていたり、きれいだと思ったら隠れ帯がなかったりとなかなかうまくいかない。そのうちシーズンが終わってしまう。

昨年7月19日家から15分くらいでいける夢前町山富という所で、絵の具のチューブを押し出して描いたような太い渦巻状の隠れ帯をつけた網を見つけた。クモをみるとギンナガゴミグモのようだ。遠いところまで行かなくてもたくさんいる。以前にもここでは一つ二つこういうタイプの隠れ帯を見たことがあったがその年は特に多く、200メートルほどの行く道沿いにずらりと並んでみられた。

しかし隠れ帯のタイプは、縦一直線のもの、細い渦巻き型、太い渦巻き型の3種類である。別に隠れ帯の無いタイプのものもある。安富町のように花火のようなものはない。隠れ帯にも地域性があるのかな、とぼんやり考えていた。でもこの形が面白くて7月から8月にかけて何度もここにかよった。

太い渦巻状の隠れ帯をつけた網を破っておくとほとんどの個体がまたすぐに網を張る。新しい網の隠れ帯はおなじ太い渦巻きのこともあるし、細い渦のことも



夢前町山富で見たギンナガゴミグモの太い渦状の隠れ帯

あるし何もつけないこともある。2~3日同じクモを見ていると、これも日によって同じこともあるし、違うときもある。

何度も同じ場所でクモをみていると、花火のような隠れ帯をつけていないし、網を張る位置や場所も安富町にいるギンナガとは少し違うようだ。安富町のは比較的、広いスペース、高い場所に張り、山富のものはどちらかという低い位置、狭い空間にいる。ひょっとして別のクモではないかと気がついた。そこで両方の個体を採集して比べてみた。すると安富町のものはクマダギンナガゴミグモ、山富のものはギンナガゴミグモと分かった。念のため谷川さんに送り確認してもらったところその通りであった。

両者に隠れ帯の違いがあるのではないかと思い、昨年名古屋の学会で新海栄一さんに尋ねてみた。両方ともどのタイプもありますよ。と即座に否定されてしまった。そのうちクモがいなくなってしまうそのままになっている。

先日(2005, 9, 24) 久しぶりに山富へ行った。地表近くにはおびただしい数のギンナガゴミグモの子グモの網が、木漏れ日を受けて並んでいた。細い渦巻状の隠れ帯をつけたものがほとんどである。太いものは1割程度であった。来年の夏、もう一度隠れ帯の詳しい観察をしようかなと思いながら帰ってきた。

訃報

今年3月に千国先生、6月に萱嶋先生と、蜘蛛学会名誉会員のお二人が相次いで逝去された。慎んでご冥福をお祈りする。千国先生のお葬式には私(吉田)も参加し、以下のような弔辞を読ませていただいた。

弔辞

ただいまご紹介にあずかりました日本蜘蛛学会会長の吉田と申します。学会を代表して一言、お悔やみの言葉を申し上げます。

千国先生は偉大な博物学者であり、偉大なクモ学者でもありました。先生は、クモや昆虫についてたくさんの本を書かれています。ウドンゲとアリジゴク、クサカゲロウ、オトシブミ、ジョロウグモ、クモたちの狩り、クモの親と子、クモの一生など。これらの本は子供向けに書かれたものですが、すべて先生ご自身の観察によるものです。

クモの産卵などは夜に行われることが多いので、それを観察するために、先生はおそらく何回も何回も徹夜されたことでしょう。たとえ子供向けのものであっても、先生は、虫たちやクモの習性について書かれた先人たちの研究の紹介に満

足せず、観察を続けられたのです。そのためにこれらの本は、子供たちだけでなく、私たちクモ研究者にとっても非常に魅力的なものとなっています。

先生はクモについてもたくさんの本や論文を書いておられます。その中でもっとも有名なものは、1989年に出版された「写真・日本クモ類大図鑑」であります。これは、日本産のクモ540種を取り上げた大著であり、クモの写真だけでなくクモの生殖器の写真が掲載されています。この図鑑によって、従来は初心者には大変難しかったクモの同定、平たく言えばクモの名前調べが比較的簡単にできるようになりました。このことが日本のクモ研究者やクモ愛好者の数を増加につながったと私たちは考えております。その意味でこの図鑑は、画期的なものでした。

いまから25年前に、私は先生のお宅を伺い、あちこちに案内していただき、さまざまな話を聞かせていただきました。定年の日に万歳をされたこと。これからは自分の好きなことが出来ると思うと、うれしくてたまらなかったということ。それから車の免許を取り、奥様と一緒に全国を旅してクモを調査し採集し、写真を撮ったこと。そのような積み重ねが「写真・日本クモ類大図鑑」に結実したのです。

先生に教えていただいた蝶ヶ岳中腹・三俣でのキタドヨウグモの行動観察を終えて、夜中に車を運転して帰る途中、アナグマ、タヌキ、それにたくさんのウサギと遭遇しました。これらの動物たちは、車のヘッドライトに驚いて、右往左往しておりました。藪の中に逃げ込めばいいようなものですが、かれらは夜中に車と遭遇することがなかったのでしょうか。いま思い返して見ますと、先生のご研究は信州の香りがします。それは信州、とりわけ安曇野のこのような豊かな自然の中で育まれたものなのでしょう。

図鑑を書かれた後、先生は体調を崩されたようでした。それはたぶん、いまで言えば、大仕事を達成されたあとの燃え尽き症候群のようなものであったのではないのでしょうか。「体に気をつけて頑張ってください」と申し上げたら、「頑張れと言ってくれるな。それがプレッシャーになるんだから」と怒られたことがあります。

そして数年前に、「もう年賀状を出してくれるな。僕も出さないから」という年賀状を受け取り、大変悲しく思いました。先生のように、体力・気力ともに群を抜く巨人であっても、時の流れには勝てないのかと思ったのです。

それでもお元気だということを知っておりましたので、お亡くなりになったと聞いて、とてもショックでした。もう指導していただくことも、叱っていただくことも叶わなくなりました。残念でなりません。先生、安らかに眠りください。

古本紹介

赤松 史憲

どうも、皆様お久しぶりです。今回は趣味で集めている古本の中にクモの記述があったので、紹介します。本といっても『博物教授法 爬蟲魚類之部 他節類之部（文部省小学校用）明治 11 年 1 月発行』という小学校の先生のための指導書のようなものです。その中の蜘蛛類の項に以下のように土蜘蛛（タナグモ）と絡新婦（ジョラウグモ）、蠅虎（ハヘトリクモ）、メクラクモの記載があります。

.....

博物教授法 爬蟲魚類之部 他節類之部

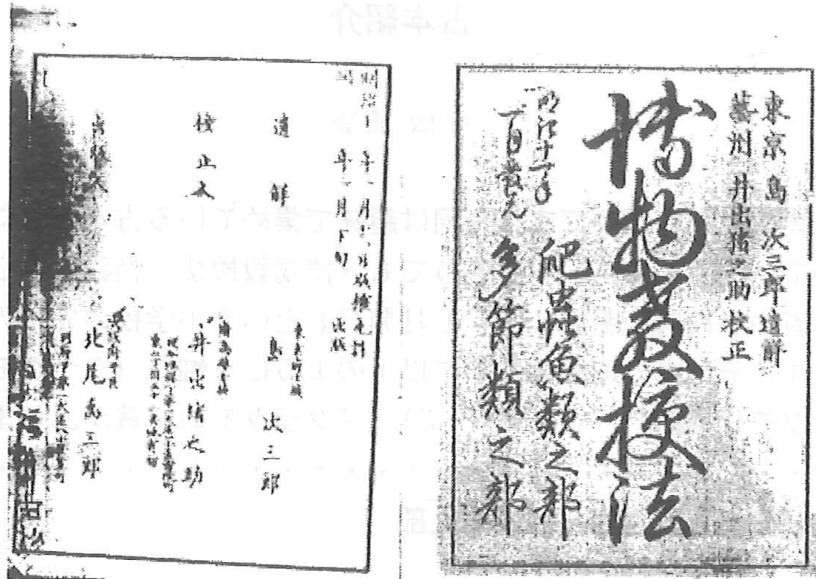
蜘蛛類

この類も翼なくして節多き脚あり、頭は胸部につき生ず。皆四対の脚ありて腹部の脚なし、肺また気管によって呼吸す、サソリを除くの他皆卵生す、その幼なるときよりその体を変化せず、ただ外皮を脱する者あり。

- 土蜘蛛は軒下また石垣の間に棲み、網を営む。いたって密なり（網の下、袋の如き巢を成し、半ば地中に入り、半ば地上に出つ、袋の土上に出たところをもちて徐々に引き出せば、全袋を得べし。蛛袋に住する故に急に引くときは、袋破れ断して地中に残る）常にひそみて小虫の来る待ち食餌となす。この蜘蛛は尋常の蜘蛛に比れば、頭大に体瘦せて赤黒色足に爪あり。
- 絡新婦は（一名ブチグモという。その毒もつとも甚だし）樹間に粘質ある巢を作る（その糸黄色して甚だ強し）故に虫これに触れば去ること能はず、その体は黄斑に赤色を交え美観なり。
- 蠅虎は人家の戸壁を徘徊し（網をひく能はず）もっぱら蠅等の小虫を捕食す（甚だ速やかなり、蠅もしこれに遭えばその害を免る能はず、故にこの名あり）性慣れやすし故に人養いて戯玩に供するあり。
- メクラクモは（身は小豆の大きさにして）その脚長き故にまたヤマノアシナガグモという（全身淡黄色にして脚の節しろきあり）巢を営まず、ただ陰の林草石の間にあるのみ。この蜘蛛一目にして糸なし、地上を行く。めくらの杖にてさぐりゆく形に似たり、ゆえに俗にザトウグモと呼ぶ。

明治 11 年 1 月下旬出版

遺鮮 東京府士族 島 次三郎
校正 広島県士族 井出 猪之助
出版 大阪府平民 北尾 兎三郎



奈良県初記録：ゴマダラヒメグモ

関根 幹夫

5月27日、セアカゴケグモが出た奈良県生駒郡三郷町の勢野北へ行きましたが、セアカゴケグモはいませんでした。かわりに、ゴマダラヒメグモとその卵のうを排水枡の蓋の裏で見つけました。「県別クモ類分布図 CD Ver.2004」によると奈良県では未だ記載されていないようで、奈良県初記録となります。

海外の研究トレンド (11)

視覚以外に振動の情報も利用するハエトリグモの求愛行動

梶元 敏也

ハエトリグモの配偶に、雄の体色や求愛ダンスが重要なことはよく知られている。特に、雌による配偶者選択や同種の認知に雄の体色とダンスといった視覚による信号が重要と考えられてきた。最近、Elias ら (2005) は、ハエトリグモの *Habronattus* 属で、視覚以外に、雄の発する振動も求愛行動の重要な要素になっていることを示した。

まず、頭胸部と腹部の間をミツバチのワックスで埋めることによって、振動を起こさせないようにした。この振動を起こさない雄と正常な振動を起こす雄の2群をそれぞれ処女雌に会わせ、交接成功率や雄と雌が会ってから交接にいたるまでの時間を測定した。

この結果、正常な振動を起こすことができる実験群は交接率が0.6であったが、振動を起こさない実験群の交接率は0.2に低下した。もっとも、交接率が低下したとはいっても交接が起こらなくなるわけではないので、振動は交接に必要な不可欠というわけではない(図1)。一方、求愛行動をスタートしてから交接までかかる時間についても、振動を起こさないと長くかかるようになる(図2)。

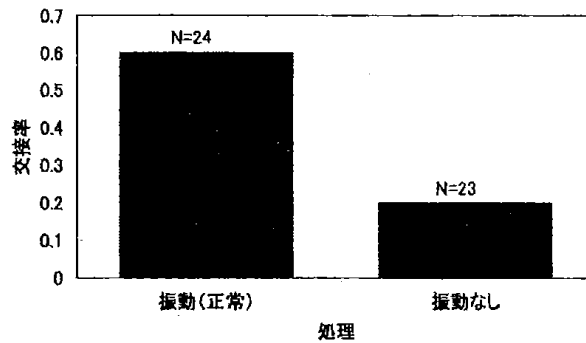


図1

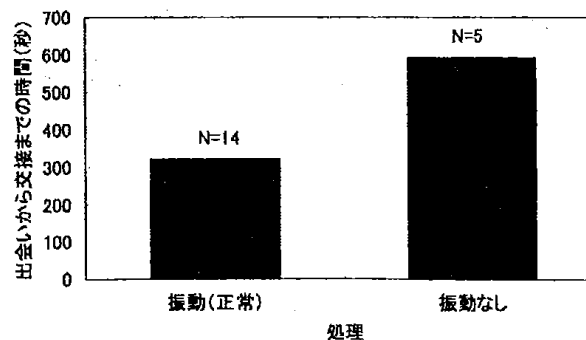


図2

また、振動を起こさない雄は振動を起こす雄に比べて、雌に食われる率は約4倍高くなった(図3)。

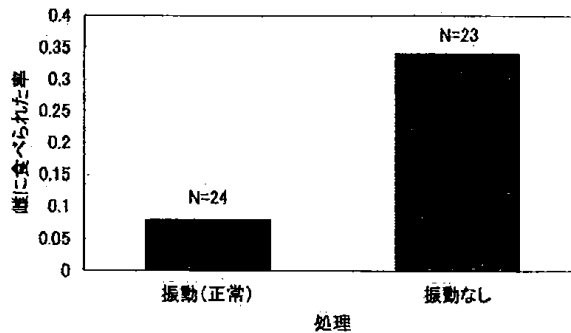
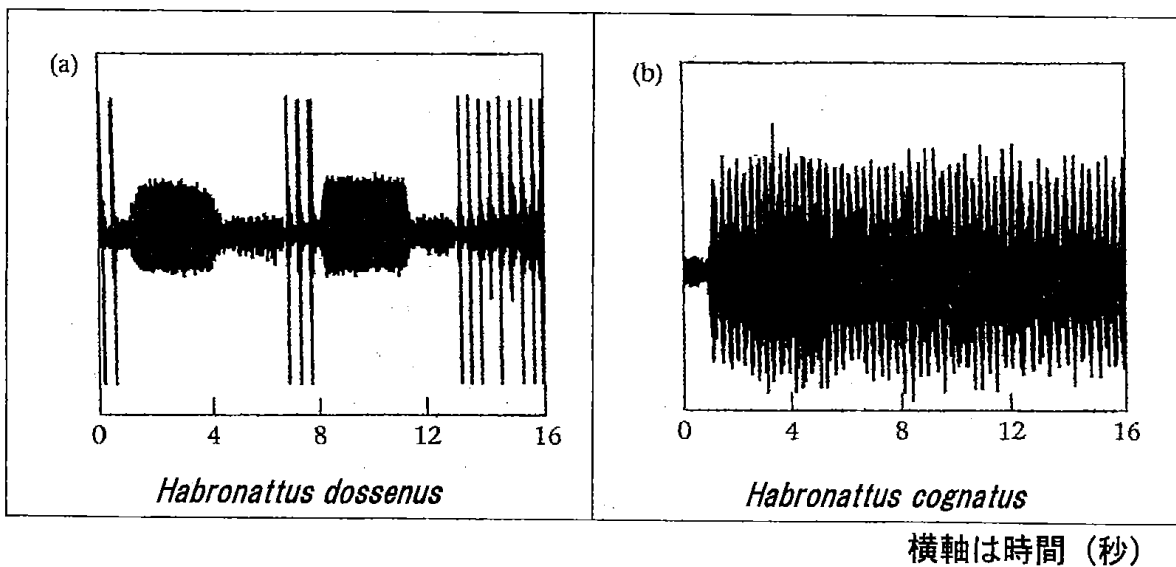
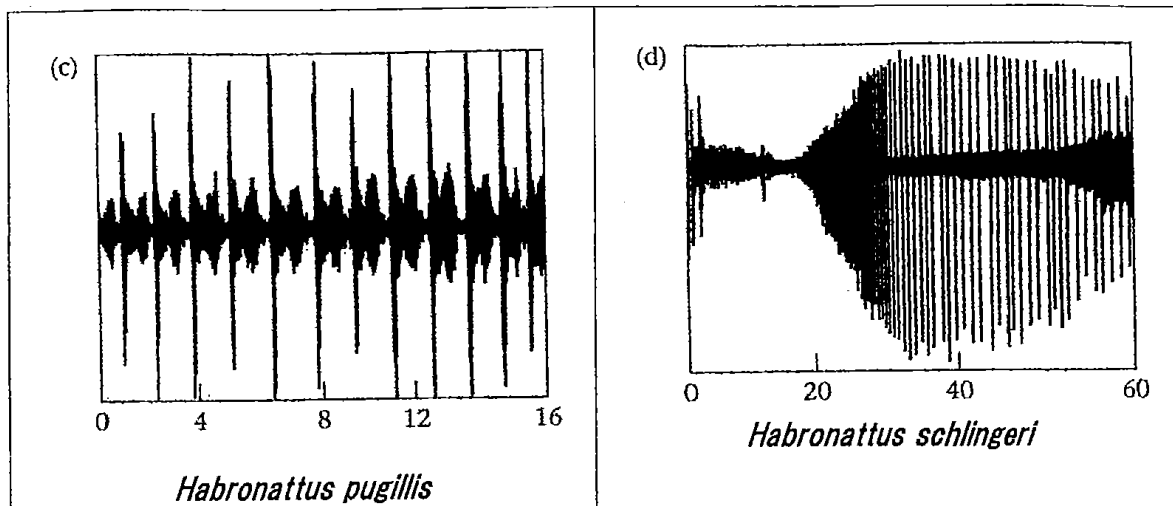


図3

つまり、*Habronattus* 属では、交接に際して雄の起こす振動は必要不可欠ではないが、振動が無いと雌はなかなか交接しない。雌は交接相手の選定にあたって、視覚情報だけでなく、振動の情報も用いて交接相手を決定している。冷静に考えてみると、たった一つの情報だけで交接相手を決定するというのは雌にとってかなりリスクの高い方法で、複数の情報を利用することによって総合的に交接相手を決定する方が、選択ミスが減らす最良の方法なのだろう。

さらに、同じ属の異なる4種の振動パターンを測定してみると、次図のような様々な振動パターンがある。





横軸は時間 (秒)

振動パターンは種によってかなり異なっており, 種の認知にもこの情報がかなり重要であることをうかがわせる。

これまでの動物行動学では, もっとも主要と考えられる情報だけを取りあげて, どのような形質が雌に好まれるか? といった実験が多く行われてきた。しかし, この研究のように, 実際には複数の情報を元に行動を決定しているのだろう。今後は, 行動の決定にからむ要因分析には様々な情報を考慮して結論を出してゆく必要がある。

参考文献

Ellias, D.O., E.A. Hebets, R.R. Hoy and A.C. Mason (2005) Seismic signals are crucial for male mating success in a visual specialist jumping spider (Araneae: Salticidae). Animal Behavior 66: 931-938

クモリスト

春沢圭太郎氏採集の大阪府中部のクモ

西川 喜朗

春沢圭太郎氏には, つねづね, 多数の貴重な標本の提供を受けているが, 今回は, それらのなかから, 大阪府中部から採集された標本の一部の同定結果を報告する。これらの標本の大部分は, 地表性の昆虫類の調査のときに得られたもので

ある。

本報告にあたり、貴重な標本の提供をいただいた春沢圭太郎氏に厚く感謝します。

目録

カネコトタテグモ *Antrodiaetus roretzii* (L. Koch)

2 ♀, 南河内郡千早赤阪村, 金剛山石ブテ谷道, 6-XII-1991

ニホンヒメグモ *Achaearanea japonica* (Bös. et Str.)

1 ♀, 南河内郡千早赤阪村, 金剛山黒梅谷, 850~550 m alt., 13-IX-1992

ナガコガネグモ *Argiope bruennichii* (Scopoli)

1 ♀, 南河内郡千早赤阪村, 金剛山黒梅谷, 850~550 m alt., 13-IX-1992

ゴミグモ *Cyclosa octotuberculata* Karsch

1 ♀, 南河内郡千早赤阪村, 金剛山黒梅谷, 850~550 m alt., 13-IX-1992

ワキグロサツマノミダマシ *Neoscona mellottei* (Simon)

1 ♀, 南河内郡千早赤阪村, 金剛山黒梅谷, 850~550 m alt., 13-IX-1992

クサグモ *Agelena limbata* Thorell

1 ♀, 南河内郡千早赤阪村, 金剛山黒梅谷, 850~550 m alt., 13-IX-1992

コクサグモ *Agelena opulenta* L. Koch

1 ♀, 2 ♂, 南河内郡千早赤阪村, 金剛山黒梅谷, 850~550 m alt., 13-IX-1992

ホラズミヤチグモ *Coelotes antri* Komatsu

1 ♀, 富田林市金胎寺山, 市営キャンプ場, [土中], 1-II-1997

2 ♂, 南河内郡千早赤阪村, 金剛山石ブテ谷道, 6-XII-1991

1 ♂, 河内長野市, 岩湧山, 400 m alt., [土中], 1-XI-1997

1 ♂, 河内長野市, 岩湧山, 500 m alt., [土中], 1-XII-1997

ウスイロヤチグモ *Coelotes decolor* Nishikawa

1 ♂, 大阪狭山市今熊5丁目, 陶器山, 5~11-III-1994

2 ♂, 富田林市甘南備, 府立金剛コロニー, 19~26-II-1994

クロヤチグモ *Coelotes exitialis* L. Koch

3 ♀, 南河内郡千早赤阪村, 金剛山石ブテ谷道, 6-XII-1991

2 ♂, 南河内郡千早赤阪村, 金剛山石ブテ西谷, 500 m alt., 9~13-IX-1997

4 ♂, 河内長野市, 岩湧山(北西), ネバシ谷, 400, 450 m alt., 21~23-IX-1997

6 ♂, 河内長野市, 岩湧山(北西), ネバシ谷, 400, 450 m alt., 23~27-IX-1997

カメンヤチグモ *Coelotes personatus* Nishikawa

1 ♀, 南河内郡千早赤阪村, 金剛山石ブテ谷道, 6-XII-1991

カミガタヤチグモ *Coelotes yaginumai* Nishikawa

1 ♂, 富田林市甘南備, 府立金剛コロニー, 19~26-II-1994

1 ♀, 南河内郡千早赤阪村, 金剛山黒梅谷, 850~550 m alt., 13-IX-1992

- 1 ♀, 河内長野市, 岩湧山, 500 m alt., [土中], 1-XII-1997
1 ♀, 1 ♂, 河内長野市, 岩湧山, 400 m alt., [土中], 1-XI-1997
ヤマハリゲコモリグモ *Pardosa brevivulva* Tanaka
2 ♀, 富田林市甘南備, 府立金剛コロニー, 2~8-IV-1994
イタチグモ *Itatsina praticola* (Bös. et Str.)
1 ♂y, 富田林市甘南備, 府立金剛コロニー, 2~8-IV-1994
コアシダカグモ *Heteropoda forcipata* (Karsch)
1 ♀, 南河内郡千早赤阪村, 金剛山石ブテ谷道, [土中], 6-XII-1991

第2回武田尾採集会報告

清水 裕行

春に引き続き, 秋季も兵庫県武田尾で本会主催のクモ採集会が催された。参加者から寄せられた種名をまとめて報告する。

【採集日と場所】2004年9月26日(日)。兵庫県宝塚市玉瀬, 武庫川左岸。標高: 130~120 m。メッシュコード: 5235-2223~24。

【参加者】池田幸二, 池田和穂, 池田勇介, 池田亮太, 加村隆英, 黒田あき, 黒田誠, 高章浩, 小池牧子, 永井亜紀, 船曳和代, 村上協三, 八幡明彦, 清水裕行(計14名)。

【経過】前回同様, 午前10時にJR武田尾駅前に集合し, 武庫川左岸を上流方向に移動。川原で昼食・休憩した後, もとのコースを戻って駅前で解散した。

初参加は, はるばる東京から来てくださった永井亜紀氏と八幡明彦氏, それに神戸市の高章浩氏である。高氏は本誌36号に手記を投稿しておられるので, ご覧いただきたい(この件については後述)。

【今回採集・確認されたクモ】

[凡例]

1. 科の配列は八木沼健夫氏の体系を基調とした。
2. ステージ(生育段階)の表記は以下のようにした。
 - (1) ♀a, ♂a: 完全に成熟していて, 雌雄生殖器が明確な個体。
 - (2) ♀j, ♂j: 亜成体等, 未成熟であるが雌雄の判別が容易な個体。
 - (3) j: 十分に発育しておらず, 雌雄の判別が困難な個体。
3. 未成熟あるいは既知種の中に該当するものが見つからなかったケースで, 「○の一種」「sp.」と報告されたものは収録しなかった。ただし, 分類学者によ

て独立種と認められ, 和名 (仮名) を与えられているものは採用する (例. アリ
タヤチグモ, ヒメカラスハエトリ. 今回は該当種なし)。

4. 同定は採集者各自で行ったが, 黒田あき・誠両氏の標本は加村隆英氏が担当
し, 池田氏の標本は清水が再同定した。

[種名一覧]

(1) ハグモ科

1. カレハグモ *Lathys humilis* *
1♀j (加村). 兵庫県新記録.

(2) ウズグモ科

2. オウギグモ *Hyptiotes affinis*
3♀a (村上); 1♀a (黒田あき); 1♀a (加村).
3. マネキグモ *Miagrammopes orientalis*
1j (黒田誠), 1♀j (池田).
4. カタハリウズグモ *Octonoba sybotides*
3♀a (村上).

(3) タマゴグモ科

5. ナルトミダニグモ *Ischnothyreus narutomii*
1♀a (清水).
6. シャラクダニグモ *Opopaea syarakui* *
3♀a, 1♂a (清水).

(4) ヒメグモ科

7. オオヒメグモ *Achaeearanea tepidariorum*
1j (池田).
8. シロカネイソウロウグモ *Argyrodes bonadea*
1♀a (高).
9. チリイソウロウグモ *Argyrodes kumadai*
1♀a (黒田誠).
10. オナガグモ *Ariamnes cylindrogaster*
1♂j (黒田あき); 1♀j (加村); 1♀j (池田).
11. ホシミドリヒメグモ *Chryso foliate* *
1j (黒田誠).
12. ハラナガヒシガタグモ *Moneta caudifer*
3♀a (村上).
13. ヤリグモ *Rhomphaea sagana* *
1♀a (池田).

14. スネグロオチバヒメグモ *Stemmops nipponicus*
3♀j (清水).
(5) サラグモ科
15. アシヨレグモ *Labulla contortipes* *
1♂j (清水). 阪神地方新記録.
(6) ヨリメグモ科
16. ヨロイヒメグモ *Comaroma maculosum* *
2♀a, 2♂a (清水).
(7) コガネグモ科
17. ハツリグモ *Acusilas coccineus*
1♀j, 1♂j (清水).
18. アオオニグモ *Araneus pentagrammicus*
1j (黒田誠).
19. ゴミグモ *Cyclosa ctotuberculata*
1j (池田).
20. シマゴミグモ *Cyclosa omonaga*
1♀j (清水).
21. トガリオニグモ *Eriovixia pseudocentredes*
1♀a (黒田誠); 1j (加村).
22. ワキグロサツマノミダマシ *Neoscona mellottei* *
1♀a (池田).
(8) アシナガグモ科
23. オオシロカネグモ *Leucauge magnifica*
1♀a (池田).
24. キンヨウグモ *Menosira ornate* *
1♂j (黒田あき); 2♀a, 1♂a (黒田誠); 1♀a, 1♂a (加村). 阪神地方新記録.
25. ジョロウグモ *Nephila clavata* *
1♂a (黒田誠); 1♀j (加村).
26. アシナガグモ *Tetragnatha praedonia*
1♂a (黒田誠).
(9) ヒラタグモ科
27. ヒラタグモ *Uroctea compactilis*
1♀j, 1♂j (池田).
(10) ホウシグモ科
28. ドウシグモ *Asceua japonica*
1♂a, 3♀j (アカマツの樹皮, 清水).

(11) タナグモ科

29. コクサグモ *Agelena opulenta* *
1♀a (黒田誠).
30. クロヤチグモ *Coelotes exitialis*
1♀a (加村).
31. カミガタヤチグモ *Coelotes yaginumai* *
1♀a (池田).

(12) コモリグモ科

32. イサゴコモリグモ *Pardosa isago*
1♀a, 3♀j, 2♂j (黒田誠).

(13) ウエムラグモ科

33. イタチグモ *Itatsina praticola*
1j (清水).
34. オトヒメグモ *Orthobula crucifera* *
6♀a, 1♂j (清水).

(14) ネコグモ科

35. ネコグモ *Trachelas japonicus*
2j (黒田誠); 2♀j (加村).

(15) シボグモ科

36. シボグモ *Anahita fauna*
1♂j (池田).

(16) カニグモ科

37. キハダカニグモ *Bassaniana decorate* *
1♀a, 1♂j (清水)
38. コカニグモ *Coriarachne fulvipes* *
1♂a (清水).
39. コハナグモ *Diaea subdola*
1j (黒田誠).
40. アシナガカニグモ *Heriaeus mellottei*
1♀a (加村目撃).
41. クマダハナグモ *Misumenops kumadai*
8j (黒田誠); 1♀j, 4♂j (加村).
42. ニッポンオチバカニグモ *Oxyptila nipponica*
1♂a (清水)
43. ワカバグモ *Oxytate striatipes*
2♀j, 1♂j (黒田誠); 1♀j, 2♂j (池田).

44. カトウツケオグモ *Phrynarachne katoi*
1♀a (高).
45. フノジグモ *Synaema globosum* *
1j (黒田誠). 阪神地方新記録.
46. アズチグモ *Thomisus labefactus* *
1j (黒田誠).
47. セマルトラフカニグモ *Tmarus rimosus*
1♀a (池田).
(17) エビグモ科
48. アサヒエビグモ *Philodromus subaureolus*
1j (加村).
49. シャコグモ *Tibellus tenellus*
1♀j, 1♂j (黒田誠); 1♀a (池田).
(18) ハエトリグモ科
50. ヤマジハエトリ *Aelurillus festivus* *
1♀a (加村). 阪神地方新記録.
51. ネコハエトリ *Carrhotus xanthogramma*
1♂j (加村).
52. マミジロハエトリ *Evarcha albaria*
1♂a (池田).
53. アシブトハエトリ *Evarcha crassipes* *
1♀a (池田).
54. ヨダンハエトリ *Marpissa pulla*
1j (黒田誠).
55. アリグモ *Myrmarachne japonica*
2♀a (高), 1♀j (池田).
56. チャイロアサヒハエトリ *Phintella abnormis*
1♀a (清水).
57. デーニッツハエトリ *Plexippoides doenitzi*
1♂a (黒田誠).
58. ミスジハエトリ *Plexippus setipes*
1♀a (高).
59. カラスハエトリ *Rhene atrata* *
1j (黒田誠).
60. アオオビハエトリ *Siler cupreus*
2♀a (高); 1♀j (池田); 1♀j, 1♂j (清水).

【結び】

1. 武田尾という地名. 今回の採集地の「武田尾」は温泉名で, 字のような行政地名ではない。この温泉を発見した江戸時代の人物に因むものという。武庫川を挟んで, 宝塚市側に1軒, 西宮市側に3軒の温泉旅館があるが, 今回の採集会の直後に襲来した台風による増水で, 多大の損害を被ったとのことである。誠に申し訳ないことで, 遅まきながら, この場を借りてお見舞いを申し上げる。

2. 採集会の総括. 前回の106種に比べると今回は60種とやや少ない。それでも兵庫県初が1種, 阪神地方初が4種, 宝塚市初(学名の右に*印を付けた)が19種記録され, まずまずの成果といってよかろう。これが刺激となって周辺で採集する人が増え, さらにデータが集まることを期待する。

なお, ここで「兵庫県初」「阪神地方初」「宝塚市初」と述べているのは, 清水個人が編纂準備中の『兵庫県産クモ目録』(仮称)に用いたデータから判断したもので, すべて出版物として公表されたものに由来する。一般に「阪神地方」の範囲は一定しないが, ここでは摂津国のうち現在, 兵庫県に属する地域とした(摂津国の東部は大阪府に属する)。すなわち, 神戸市(垂水区・西区および北区の淡河地区を除く)・尼崎市・西宮市・芦屋市・伊丹市・川西市・三田市・猪名川町の7市1町を指す。ちなみに, 今回の採集会の結果, 兵庫県の総数は460種, 阪神地方は254種, 宝塚市は140種となった。

3. お願い. 今回も採集会参加者の御協力により, 貴重なデータをそろえることができた。この場をお借りしてお礼申しあげる。前回分も含めて, 誤りや漏れがみつかった場合には改めて報告したい。誤りに気付かれたなった方・今回はレポートが間に合わなかった方はご一報ください。独自に発表していただいても結構です。

4. お断り. 本誌36号の21頁に高章浩氏筆の「採集会の感想」と題する文章が掲載された。文中には日時も場所も明記されておらず, また筆者による前報の後に置かれたため, 2004年5月30日の春季採集会の報告と誤認された読者もあるものと思われる。これは秋季の情報で, 本資料に先立って公表されたものであることをここでお知らせしておく。従って, データは本資料と一部重複する。また, 著者名が「高章 浩」となっていたが, 正しくは「高 章浩」である。

また, 前報の末尾(p.20)に記念写真が添えられているが, これは加村隆英氏が撮影し, 独自に投稿したものなので, 独立した記事として扱うべきものであろう。

5. お詫び. 最後になったが, 筆者の怠慢により, 本報の発表が大幅に遅れてしまった。第2報を心待ちにしておられた読者と早くから情報を提供してくださっていた参加者の皆様に心からお詫びしたい。

枚岡公園採集会の記録

大阪府東大阪市 出雲井町～東豊浦町 枚岡公園, 標高 50-170m.

(2005年5月29日)

参加者: 池田幸二, 池田和穂, 池田勇介, 池田亮太, 金指保夫, 金指望美, 加村隆英, 黒田あき, 黒田誠, 小池牧子, 関根幹夫, 高橋ジョナ, 田中穂積, 田中和代, 西川喜朗, 船曳和代, 村上協三, 村上ひかり (18名)

採集標本のリスト (j. は幼体, 括弧内は採集者.)

Atypidae ジグモ科

Atypus karschi Dönitz 1887 ジグモ 2♀j.(池田)

Ctenizidae トタテグモ科

Latouchia typica (Kishida 1913) キシノウエトタテグモ 2♀j.(池田), 2♀j.(黒田誠)

Ummidia fragaria (Dönitz 1887) キノボリトタテグモ 1♀(池田), 1♀j.(黒田誠)

Pholcidae ユウレイグモ科

Pholcus crypticolens Bösenberg & Strand 1906 ユウレイグモ 1♂1♂j.(池田), 1♂(加村), 1♀(黒田誠), 1♂(船曳)

Spermophora senoculata (Duges 1836) シモングモ 1♀(加村)

Segestriidae エンماغモ科

Ariadna lateralis (Karsch 1881) ミヤグモ 2♀(黒田あき), 1♀(黒田誠)

Oecobiidae チリグモ科

Uroctea compactilis L. Koch 1878 ヒラタグモ 1♀j.(池田), 1♀j.1♂j.(黒田誠), 1♀3♀j.2♂j.(高橋), 1♂j.(西川)

Uloboridae ウズグモ科

Miagrammopes orientalis Bösenberg & Strand 1906 マネキグモ 1♀(池田), 1♀(黒田あき), 4♀1♀j.(高橋), 1♀(西川), 1♀(船曳)

Octonoba sybotides (Bösenberg & Strand 1906) カタハリウズグモ 1♀(関根)

Octonoba varians (Bösenberg & Strand 1906) ウズグモ 3♀1♀j.(池田)

Theridiidae ヒメグモ科

Achaeearanea angulithorax (Bösenberg & Strand 1906) ツリガネヒメグモ 1♀2♂(池田), 3♀1♂(黒田あき), 1♀(黒田誠), 1♀(船曳)

Achaeearanea culicivola (Bösenberg & Strand 1906) カグヤヒメグモ 2♀j.(池田), 1♀(加村), 1♀(黒田あき), 1♀(黒田誠), 1♀(田中), 2♀1♂(船曳)

Achaeearanea tabulata Levi 1980 オオツリガネヒメグモ 1♀(池田), 1♀1♂(黒田)

あき)

Achaearanea tepidariorum (C. L. Koch 1841) オオヒメグモ 2♀1♂9♀j. 2♂j.(池田), 1♀j.(黒田あき), 1♀(黒田誠), 2♀(高橋), 2♀1♂1♂j.1j.(西川), 1♀(村上ひかり)

Anelosimus crassipes (Bösenberg & Strand 1906) アシプトヒメグモ 1♀1♀j.1♂j.(池田), 2♀(加村), 1♂(西川), 1♀(村上協三)

Argyrodes cylindratus Thorell 1889 トビジロイソウロウグモ 1j.(船曳)

Argyrodes kumadai Chida & Tanikawa 1999 チリイソウロウグモ 2♀j.(池田)

Ariamnes cylindrogaster (Simon 1888) オナガグモ 1♂(村上ひかり)

Enoplognatha abrupta (Karsch 1879) カレハヒメグモ 6♀2♀j.(池田), 2♀(黒田あき), 2♀(高橋), 3♀(西川), 2♀(村上協三), 1♀1♀j.(村上ひかり)

Steatoda cingulata (Thorell 1890) ハンゲツオスナキグモ 1♀1♀j.(池田)

Takayus subadultus (Bösenberg & Strand 1906) コケヒメグモ 1♂(黒田あき)

Trigonobothrys mustelina (Simon 1888) カニミジングモ 2♂(池田)

Pimoidae ピモサラグモ科

Weintrauboa contortipes (Karsch 1881) アシヨレグモ 1♀(池田)

Linyphiidae サラグモ科

Nematogmus sanguinolentus (Walckenaer 1837) チビアカサラグモ 1♀(船曳)

Nerienne herbosa (Oi 1960) シバサラグモ 1♀(黒田あき)

Nerienne nigripectoides (Oi 1960) ムネグロサラグモ 1♀(池田)

Ostearius melanopygius (O. P.-Cambridge 1879) スソグロサラグモ 2♀1♀j.(池田)

Parhypomma naraensis (Oi 1960) ナラヌカグモ 1♀(船曳)

Prolinyphia longipedella (Bösenberg & Strand 1906) アシナガサラグモ 1♀2♀j.(池田), 1♂j.(船曳)

Turinyphia yunohamensis (Bösenberg & Strand 1906) ユノハマサラグモ 1♀(船曳)

Tetragnathidae アシナガグモ科

Leucauge blanda (L. Koch 1878) チュウガタシロカネグモ 1♀(高橋), 1♂(田中), 2♀(西川)

Leucauge magnifica Yaginuma 1954 オオシロカネグモ 2♀1♂1♀j.1♂j.(池田), 1♀2♀j.(高橋), 1♀(西川), 1♀(村上協三), 1♀(村上ひかり)

Leucauge subblanda Bösenberg & Strand 1906 コシロカネグモ 1♀(黒田誠), 1♀(西川)

Nephila clavata L. Koch 1878 ジョロウグモ 1♀j.(池田), 1j.(黒田誠)

Tetragnatha praedonia L. Koch 1878 アシナガグモ 1♀1♂j.(池田), 1♂(黒田あ)

き), 2♀(黒田誠), 1♀(船曳), 2♂(村上ひかり)

Tetragnatha maxillosa Thorell 1895 ヤサガタアシナガグモ 1♀(池田), 2♀(高橋)

Tetragnatha squamata Karsch 1879 ウロコアシナガグモ 1j.(船曳)

Araneidae コガネグモ科

Acusilas coccineus Simon 1895 ハツリグモ 1♀j.(池田), 1♀(関根), 1♀j.(船曳)

Cyclosa argenteoalba Bösenberg & Strand 1906 ギンメッキゴミグモ 1♀j.(池田),
1♀(黒田あき), 1♀(黒田誠), 1♀(西川)

Cyclosa octotuberculata Karsch 1879 ゴミグモ 1♀1♂1♀j.(池田), 1♀1♂(加村),
1♀1♂(高橋), 1♀(村上ひかり)

Cyclosa omonaga Tanikawa 1992 シマゴミグモ 1♀(池田), 1♀(黒田誠), 1♀(田
中), 1♀(村上協三)

Cyclosa sedeculata Karsch 1879 ヨツデゴミグモ 1♀1♂1♀j.(池田), 1♀(黒田あ
き), 1♀(村上協三)

Cyrtophora moluccensis (Doleschall 1857) スズミグモ 1♀j.(池田)

Eriophora astridae (Strand 1917) サガオニグモ 1♀j.(池田)

Eriovixia pseudocentrodes (Bösenberg & Strand 1906) トガリオニグモ 1♀j.(高
橋)

Neoscona nautica (L. Koch 1875) イエオニグモ 1♀j.(村上協三)

Neoscona scylla (Karsch 1879) ヤマシロオニグモ 1♀j.(池田), 1♂j.(黒田あき),
1♂j.(黒田誠), 3♀j.(高橋), 1♀j.(船曳)

Lycosidae コモリグモ科

Pardosa sp. ハリゲコモリグモ類の一種 1♀(船曳)

Pirata clercki (Bösenberg & Strand 1906) クラークコモリグモ 1♀(黒田あき), 1
♀1♂(黒田誠), 1♀(田中)

Oxyopidae ササグモ科

Oxyopes sertatus L. Koch 1878 ササグモ 2♀3♂(池田)

Agelenidae タナグモ科

Agelena opulenta L. Koch 1878 コクサグモ 1♀j.(池田), 1♀j.(黒田あき), 1♀
j.(黒田誠)

Agelena silvatica Oliger 1983 クサグモ 4♀j.(池田), 2j.(西川)

Amaurobiidae ガケジグモ科

Asiacoelotes insidiosus (L. Koch 1878) シモフリヤチグモ 1♀(黒田あき)

Desidae ウシオグモ科

Badumna insignis (L. Koch 1872) クロガケジグモ 1♂j.(池田), 1♀1♂(加村), 1
♀j.(黒田誠)

Liocranidae ウエムラグモ科

Itatsina praticola (Bösenberg & Strand 1906) イタチグモ 2♀(池田)

Clubionidae フクログモ科

Clubiona japonica L. Koch 1878 ヤマトフクログモ 1♀(加村), 1♀(黒田誠), 1♀(西川)

Corinnidae ネコグモ科

Trachelas japonicus Bösenberg & Strand 1906 ネコグモ 1♀(船曳)

Phrurolithus coreanus Paik 1991 キレオビウラシマグモ 1♂(黒田誠)

Gnaphosidae ワシグモ科

Hitobia asiatica (Bösenberg & Strand 1906) シノノメトンビグモ 1♀(池田), 1♀j.(船曳)

Sernokorba pallidipatellis (Bösenberg & Strand 1906) マエトビケムリグモ 1♀1♂(加村), 1♀(関根)

Sparassidae アシダカグモ科

Sinopoda forcipata (Karsch 1881) コアシダカグモ 1♀(池田), 1♀(高橋)

Philodromidae エビグモ科

Philodromus auricomus L. Koch 1878 キンイロエビグモ 2♂2♀j.1♂j.(池田), 1♀1♂(関根)

Philodromus spinatarsis Simon 1895 キハダエビグモ 1♀(黒田あき)

Philodromus subaureolus Bösenberg & Strand 1906 アサヒエビグモ 1♀j.(船曳), 1♀(村上ひかり)

Tibellus tenellus (L. Koch 1876) シャコグモ 1♂j.(池田), 1♀j.1♂j.(船曳)

Thomisidae カニグモ科

Bassaniana decorata (Karsch 1879) キハダカニグモ 1♀j.(池田), 1♀(黒田あき)

Diaea subdola O.P.-Cambridge 1885 コハナグモ 2♀1♂1♀j.(池田), 1♂(黒田誠), 1♀j.(関根), 1♀j.(高橋)

Pistius undulatus Karsch 1879 ガザミグモ 1♂(村上協三)

Xysticus croceus Fox 1937 ヤミイロカニグモ 1♂(池田)

Salticidae ハエトリグモ科

Carrhotus xanthogramma (Latreille 1819) ネコハエトリ 1♂(船曳)

Evarcha albaria (L. Koch 1878) マミジロハエトリ 1♀(池田)

Mendoza elongata (Karsch 1879) ヤハズハエトリ 1♀(関根)

Menemerus fulvus (L. Koch 1878) シラヒゲハエトリ 1♀(黒田誠)

Myrmarachne inermichelis Bösenberg & Strand 1906 ヤサアリグモ 1♀j.(池田), 1♂(高橋)

Myrmarachne japonica (Karsch 1879) アリグモ 1♀j.1♂j.(池田), 2♂(黒田誠), 1

♂(関根)

Phintella abnormis (Bösenberg & Strand 1906) チャイロアサヒハエトリ 1♂(船
曳)

Plexippoides doenitzi (Karsch 1879) デーニッツハエトリ 2♀j.(池田), 1♂(西川)

Pseudicius vulpes (Grube 1861) イナズマハエトリ 1♂(黒田誠)

Sibianor pullus (Bösenberg & Strand 1906) キレワハエトリ 1♂(田中)

Siler cupreus Simon 1888 アオオビハエトリ 1♀(池田)

Yaginumanis sexdentatus (Yaginuma 1967) ムツバハエトリ 1♀(加村)



採集会（枚岡公園，2005年5月29日）の参加者
（この写真は，加村のカメラで田中和代さんに撮影していただいたものです。）

（文責：加村隆英）

大阪府枚岡公園のクモ 補足資料

西川 喜朗

1993年5月8日に枚岡公園で採集したクモの同定結果がありましたので報告します。

採集地：大阪府東大阪市枚岡公園 80～250 m alt. (生駒山西麓)

- Chrysso foliata* (L.Koch 1878) ホシミドリヒメグモ 1♀幼体
Coelotes decolor Nishikawa 1973 ウスイロヤチグモ 1♀幼体
Itatsina praticola (Bösenberg & Strand 1906) イタチグモ 1♀
Otacilia komurai (Yaginuma 1952) コムラウラシマグモ 1♀
Trachelas japonicus Bösenberg & Strand 1906 ネコグモ 1♀
Anahita fauna Karsch 1879 シボグモ 1♀幼体 1♂幼体

茨木市泉原のクモ

池田 勇介

ぼくは、2005年6月19日に大阪市立自然史博物館の月例ハイキング「クモ」に参加しました。茨木市の泉原で行われました。泉原は、阪急茨木市駅からバスに乗って、50分ほど行くとつきました。ぼくは去年も、このイベントに参加しました。去年ぼくは、生まれてはじめて、泉原で友の会の人が取ったトゲグモを見ました。とてもカッコいいなあと思って、今回の泉原での目標のクモは、トゲグモです。がんばってとるぞ！という気持ちでさがしましたが、見つかりません。はっ！いま気づきました。トゲグモが成体になるのは、8月～9月、今は幼体だ。これじゃ、見つけるのは、むずかしいな～と思いましたが、それでも、あきらめずにさがしました。

ぼくが、クモ以外で、はじめて見ておどろいたのは、昼食を食べた所のすぐ近くの池にはえていた、タヌキモです。まさか、こんなきたない池にはえているとは、おもいませんでした。その後山を下り、バスに乗り、駅に行って帰りました。

家に着くと、生かして持ち帰ったクモの整理をしていて、途中でとった小さな黒いクモを顕微鏡で見ると・・・「おっ！これは！」とさげんでしまいました。黒いクモは、おなかに4本のトゲがはえていました。トゲグモの幼体だ、と思った

ので、飼育することにしました。小さなビンの中に、クモをうつすと、クモがいません。あれ!と思って、ビンのフタを見ると、なんと!つぶれたクモがいます。そうです。ぼくが、ピンをしめるときに、クモをフタの間に、はさんでしまったのです。頭の中が真っ白になりました。お父さんに、「やってしまったものは、しかたがない」といわれ、こんな失敗は、二度とするかと思いました。いろいろありましたが、とてもたのしかったです。

この原稿の指導をしてくださった西川喜朗先生ありがとうございました。茨木市泉原で、ぼくがとったクモは、つぎのとおりです。

◆ (1)は2004・9・21 (2)は2005・6・19にとったクモ。

ハグモ科

ネコハグモ (1) 1♂

ウズグモ科

カタハリウズグモ (1) 1♀y (2) 1♀

ユウレイグモ科

ユウレイグモ (1) 1♂y

ヒメグモ科

オオヒメグモ (1) 1♀y 1♀ 1♂ (2) 1♀

カレハヒメグモ (1) 2♀y

ツリガネヒメグモ (1) 1♀y 1♀

ヒザブトヒメグモ (2) 1♀

ニホンヒメグモ (1) 1♀

バラギヒメグモ (2) 1♀

フタオイソウロウグモ (2) 1♂

トビジロイソウロウグモ (1) 1♀

オナガグモ (1) 1♀y

サラグモ科

アシヨレグモ (1) 1♀

ヘリジロサラグモ (1) 1♀

ムネグロサラグモ (2) 1♀

チビアカサラグモ (2) 1♂

コガネグモ科

アオオニグモ (2) 1♀

ヌサオニグモ (2) 1♀

ヤマシロオニグモ (2) 1♂y

イエオニグモ (1) 1♀y

- ヘリジロオニグモ (1) 1 ♀ y
ハツリグモ (1) 1 ♀ y
ゴミグモ (1) 1 ♀ y, (2) 1 ♀
ヤマトゴミグモ (1) 1 ♀
ジョロウグモ (1) 1 ♀ 1 ♂

アシナガグモ科

- オオシロカネグモ (1) 1 ♀ 1 ♀ y
コシロカネグモ (2) 1 ♀ y
ウロコアシナガグモ (2) 1 ♀ y
アシナガグモ (1) 1 ♀ 2 ♀ y
ヤサガタアシナガグモ (2) 1 ♀ 1 ♂

タナグモ科

- コクサグモ (1) 1 ♀ y

コモリグモ科

- ハラクロコモリグモ (2) 1 ♀
ハリゲコモリグモ (2) 1 ♀
ウツキコモリグモ (1) 1 ♀ y

ササグモ科

- ササグモ (2) 1 ♀

カニグモ科

- ワカバグモ (1) 1 ♀ y, (2) 1 y
コハナグモ (2) 1 ♀
クマダハナグモ (1) 1 ♀ y 1 ♂ y
トラフカニグモ (2) 1 ♀

エビグモ科

- シャコグモ (1) 1 ♀ y
キンイロエビグモ (2) 1 ♀ 1 ♂

ハエトリグモ科

- アリグモ (1) 1 ♀ y
デーニツハエトリ (1) 1 ♀
マミジロハエトリ (1) 1 ♀
アオオビハエトリ (1) 1 ♀ y

関西クモ研究会 会費納入のお願い

関西クモ研究会の会費は年額 1,000 円です。会費は前納を原則としておりますので、よろしく願いいたします。

会員みなさんの会費納入状況は封筒の宛名ラベルに記してあります。ただし、ご入金ของ時期によっては行き違いとなり、宛名ラベルに正確なデータが反映されていないことがありますので、ご了承ください。

編集後記

くものいと 38 号をお届けします。とりあえず年内に発行できてほっとしております。今回もコガネグモやゴミグモに関する興味深い知見が掲載されています。前号に比べればややボリュームも増えましたが、やはり 50 ページ以上の会誌を作りたいものだと思っています。皆さん、どしどし投稿してください。よろしくお願いいたします。今回は最終的な編集を加村さんにやっていただきました。お忙しいところを本当に有難うございました。

<関西クモ研究会>

会長 山野忠清
編集 吉田 真
庶務 加村隆英
会計 加村隆英
会計監査 田中穂積
顧問 西川喜朗

くものいと 38 号

発行 2005 年 12 月 17 日

関西クモ研究会 (代表: 山野 忠清)

事務局 (担当: 加村 隆英)

567-8502 大阪府茨木市西安威 2-1-15

追手門学院大学 生物学研究室

E-mail kamura@res.otemon.ac.jp
